

地盤調査特記仕様書書式・同記載要領

令和7年版

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官

目 次

使用上の注意事項	1
地盤調査特記仕様書	
調査概要	2
一般特記事項	2
1章 一般共通事項	4
2章 機械ボーリング	6
3章 サウンディング	8
4章 載荷試験	10
5章 物理探査・検層	12
6章 地下水調査	14
7章 サンプリング	16
8章 土質試験	18

使用上の注意事項

特記仕様書は、当該工事のみに適用される事項を示すものであり、文部科学省地盤調査標準仕様書（以下「標準仕様書」という。）及び図面に優先するものである。

したがって、標準仕様書の趣旨を十分に理解し、次の事項に基づいて作成する。

1. 標準仕様書でいう「特記」とは、設計図書のうち標準仕様書以外のものに表現されるべき事項であり、単に特記仕様書に記載した事項のみが特記でないことに十分注意を払う必要がある。

特記する事項は、

- ① 標準仕様書において「特記による。」と規定している事項
- ② 標準仕様書に定めている標準によらない事項
- ③ 標準仕様書に定めがない事項

等である。

2. この特記仕様書書式（以下「書式」という。）は、標準仕様書において「特記による。」と規定している事項のうち、一般に特記仕様書に記載する事項について定めたものである。

したがって、調査の内容、規模等により関係のない事項は削除し、必要な事項は追加記載するなど、各発注部局において判断し作成するものとする。

地盤調査特記仕様書

調査概要

調査名称

調査場所

調査期限

令和 年 月 日 (曜日)

調査内容

一般特記事項

総則

1. この調査の受注者は、文部科学省が定めた測量調査等請負契約要項、特記仕様書 ____枚、図面 ____枚、文部科学省地盤調査標準仕様書（令和7年版）に基づき調査を実施する。
2. 特記仕様書の適用方法
 - 1) ・印で始まる事項及び表中の・印の事項は、○印を付した事項のみ適用する。
 - 2) ~~=====~~で抹消した章及び項目の当該特記事項は、すべて適用しない。
 - 3) 表中の数字、文字又は記号を記入する事項は、記入してある事項のみ適用する。
 - 4) 左欄の（ ）内の数値は、文部科学省地盤調査標準仕様書の該当番号を示す。

貸与資料

本調査の参考資料として、次の資料を貸与する。なお、貸与資料は調査完了後すみやかに返却すること。

1章 一般共通事項

<p>(1. 1. 4) 業務実績情報の登録</p>	<p>業務実績情報の登録 ・ 登録する</p>
<p>(1. 3. 2) 技術者</p>	<p>この調査には、下記の資格を有する技術者を選任する。</p> <p>-----</p>
<p>(1. 3. 4) 現場作業条件</p>	<p>この調査現場では、次の作業条件による。</p> <p>-----</p>
<p>(1. 3. 10) 作業の検査</p>	<p>次について検査を行う。</p> <p>-----</p>
<p>(1. 3. 11) 作業の立会い等</p>	<p>標準仕様書に定めがあるもの以外で、次に示す作業段階及び事項については、監督職員の立会いを受ける。</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>(1. 5. 1) 報告書等の提出</p>	<p>報告書等は標準仕様書によるほか、次のものを提出する。</p> <p>-----</p> <p>報告書等の提出部数は、 _____部とする。</p>

1章 一般共通事項

(1.1.4) 業務実績情報の登録

- ・ 予定価格が100万円以上の業務で、(一財)日本建設情報総合センターの業務実績情報システム(TECRIS)へ登録する場合に記載する。

(1.3.2) 技術者

- ・ 調査の内容・規模等に応じて必要なものを記載する。

[記載例]

- ・ 地質調査技士.....

(1.3.4) 現場作業条件

- ・ 作業時間の指定(行政機関の休日又は夜間)を行う場合には記載する。

(1.3.10) 作業の検査

- ・ 調査の内容・規模等に応じて必要なものを記載する。

[記載例]

次について検査を行う。

- ・ 機械ボーリングの掘進完了後

[留意点]

- ・ 作業の検査は、調査完了後に確認できない事項等を必要に応じて記載する。

(1.3.11) 作業の立会い等

- ・ 必要に応じて該当する事項を記載する。

(1.5.1) 報告書等の提出

- ・ 必要に応じて該当する事項を記載する。

[記載例]

報告書等は標準仕様書によるほか、次のものを提出する。

- ・ 計画建造物における基礎の考察.....

.....

報告書等の提出部数は、 〇 部とする。

[留意点]

- ・ 提出物には、標準仕様書に記載されていないものを提出させる場合に記載する。

2章 機械ボーリング

(2.1.2) 調査

・機械ボーリングは、掘削位置、方向、深度、孔径及び数量について記載する。

[記載例]

機械ボーリングは、次による。

ボーリング NO	方向	深度	孔径	数量 (m)				備考
				粘性土	砂質土	〇〇土	計	
1	鉛直下	GL-〇〇m	φ 〇〇cm	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	
2	〃	GL-〇〇m	φ 〇〇cm	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	
3	斜め下	GL-〇〇m	φ 〇〇cm	〇〇	—	—	〇〇	
ボーリング機械 〇〇〇〇〇〇〇〇								

[留意点]

- ・ボーリングの位置は、平面図に記載する。
- ・数量は、原則として土質ごとに記載する。
- ・ボーリング機械は、標準機種（ロータリー式ボーリング）以外の機種を使用する場合に記載する。

3章 サウンディング

(3. 1. 2)
試

験

標準貫入試験は、次による。

試験位置	試験深さ	備考
測定間隔		

(3. 2. 2)
試

験

機械式コーン（オランダ式二重管コーン）貫入試験は、次による。

(3. 3. 2)
試

験

スクリーウエイト貫入試験（旧スウェーデン式サウンディング試験）は、次による。

(3. 4. 2)
試

験

ポータブルコーン貫入試験は、次による。

3章 サウンディング

(3.1.2) 試験

- 標準貫入試験は、試験を行う位置、深さ及び測定間隔について記載する。

[記載例]	標準貫入試験は、次による。		
	試験位置	試験深さ	備考
	ボーリングNO1	ボーリング長さと同じ	
	ボーリングNO2	GL-〇〇m	
測定間隔 (例1)GL-3mの深さから1mごとに行う。 (例2)ボーリングNO.1は、シルト層は50cmごと、それ以外は1mごとに行う。			

[留意点]

- 試験位置は、平面図に記載する。
- 測定間隔は、通常1mごとに行われるが、地下構造物の支持地盤調査等では表層部分の試験を省略したり、沈下が予測されるシルト層や複雑な地層構造の場合においては、間隔を狭くして調査する場合がある。このような場合に記載する。
- 測定間隔を文章で記載できない場合は、想定ボーリング柱状図又は地質縦断図等に記載する。

(3.2.2) 試験

- 機械式コーン（オランダ式二重管コーン）貫入試験は、試験を行う位置及び深さについて記載する。

[記載例]	機械式コーン（オランダ式二重管コーン）貫入試験は、次による。		
	試験位置	試験深さ	備考
	図示による	地表面からGL-〇〇mの範囲	

[留意点]

- 試験位置は、平面図に記載する。

(3.3.2) 試験

- スクリーウエイト貫入試験（旧スウェーデン式サウンディング試験）は、試験を行う位置及び深さについて記載する。

[記載例]	スクリーウエイト貫入試験（旧スウェーデン式サウンディング試験）は、次による。		
	試験位置	試験深さ	備考
	図示による	地表面からGL-〇〇mの範囲	

[留意点]

- 試験位置は、平面図に記載する。

(3.4.2) 試験

- ポータブルコーン貫入試験は、試験を行う位置及び深さについて記載する。

[記載例]	ポータブルコーン貫入試験は、次による。		
	試験位置	試験深さ	備考
	図示による	地表面からGL-〇〇mの範囲	

[留意点]

- 試験位置は、平面図に記載する。

4章 載荷試験

(4. 1. 2)
試

験

孔内載荷試験は、次による。

試験位置	試験深さ	数量	備考

(4. 2. 2)
試

験

平板載荷試験は、次による。

試験位置	試験深さ	試験最大荷重	備考

載荷方法 ・ 段階式載荷 ・ 段階式繰返し載荷

4章 載荷試験

(4.1.2) 試験

- ・ 孔内載荷試験は、試験を行う位置及び深さについて記載する。

[記載例]	孔内載荷試験は、次による。			
	試験位置	試験深さ	数量	備考
	ボーリングNO〇	GL-〇〇m及びGL-〇〇m	〇箇所	〇〇土層

[留意点]

- ・ 試験位置は、平面図に記載する。
- ・ 試験深さを文章で記載できない場合は、想定ボーリング柱状図又は地質縦断図に記載する。

(4.2.2) 試験

- ・ 平板載荷試験は、試験を行う位置、深さ、試験最大荷重及び載荷方法について記載する。

[記載例]	平板載荷試験は、次による。			
	試験位置	試験深さ	試験最大荷重	備考
	図示による	GL-〇〇m	〇〇kN	〇〇土層
載荷方法 ・ 段階式載荷 ・ 段階式繰返し載荷				

[留意点]

- ・ 試験位置は、平面図に記載する。

5章 物理探査・検層

(5. 1. 2)
調

査

速度検層（P S 検層）は，次による。

測定位置	測定深さ	備考

測定間隔 m

(5. 2. 2)
調

査

弾性波探査は，次による。

測線配置	受振点間隔	起振点間隔	備考

(5. 3. 2)
調

査

常時微動測定は，次による。

測定位置	測定深さ	測定箇所数	備考

掘削孔径 mm

換振器の固有周期

.....

5章 物理探査・検層

(5.1.2) 調査

- ・速度検層（P S 検層）は、測定を行う位置、深さ及び測定間隔について記載する。

[記載例]	速度検層（P S 検層）は、次による。		
	測定位置	測定深さ	備考
	ボーリングNO〇	GL-〇〇mからGL-〇〇mの 範囲	
	測定間隔	〇〇m	

[留意点]

- ・測定位置は、平面図に記載する。

(5.2.2) 調査

- ・弾性波探査は、測線配置、受振点間隔及び起振点間隔について記載する。

[記載例]	弾性波探査は、次による。			
	測線配置	受振点間隔	起振点間隔	備考
	図示による	〇〇m	〇〇m	

[留意点]

- ・測線配置は、平面図に記載する。
- ・受振点間隔は、一般に5m又は10mで行われるが、想定される地層構成が複雑な場合又は対象調査深度が深い場合は、5m間隔で実施する。
- ・起振点間隔は、20m～70m程度の間隔で行われるが、想定される地層構成、対象調査深度等を勘案の上、適切に設定する。

(5.3.2) 調査

- ・常時微動測定は、測定を行う位置、深さ、掘削孔径及び換振器の固有周期について記載する。

[記載例]	常時微動測定は、次による。			
	測定位置	測定深さ	測定箇所数	備考
	ボーリングNO〇	地表面、GL-〇〇m及び GL-〇〇m	〇点	
	掘削孔径	〇〇mm		
換振器の固有周期	〇〇〇〇〇〇〇〇			

[留意点]

- ・測定位置は、平面図に記載する。
- ・換振器の固有周期は1秒を標準としているが、高層建築物、免震構造等の場合で、固有周期5秒の換振器を併用する場合に記載する。
- ・地中で2点以上同時に測定を行う場合は記載する。

6章 地下水調査

(6. 1. 2)
試

験

現場透水試験は、次による。

試験位置	試験深さ	備考

掘削孔径 mm

試験方法

6章 地下水調査

(6.1.2) 試験

- 現場透水試験は、試験を行う位置、深さ、掘削孔径及び試験方法について記載する。

[記載例]	現場透水試験は、次による。		
	試験位置	試験深さ	備考
	ボーリングNO〇	GL-〇〇m	
	掘削孔径	〇〇mm	
	試験方法	〇〇〇試験	

[留意点]

- 試験位置は、平面図に記載する。
- 試験方法は、単孔を利用した透水試験以外の方法による場合に記載する。

7章 サンプルング

(7.1.2)
サンプルング

土質試験に用いる試料のサンプルングは、次による。

試料の状態	対象土質	採取位置	採取深さ	数量	採取方法
乱れの少ない 試料					
乱れた試料					

7章 サンプルング

(7. 1. 2) サンプルング

・サンプルングは、試料の採取を行う位置、深さ及び数量等について記載する。

[記載例]	土質試験に用いる試料のサンプルングは、次による。					
	試料の状態	対象土質	採取位置	採取深さ	数量	採取方法
	乱れの少ない 試料	粘性土	ボーリングNO〇	GL-〇〇m	〇〇本	標準仕様書による
		砂質土	ボーリングNO〇	GL-〇〇m	〇〇本	
		〇〇土	ボーリングNO〇	GL-〇〇m	〇〇本	
	乱れた試料	粘性土	ボーリングNO〇	GL-〇〇m	〇〇本	標準貫入試験
		砂質土	ボーリングNO〇	GL-〇〇m	〇〇本	
〇〇土		ボーリングNO〇	GL-〇〇m	〇〇本		

[留意点]

・採取深さ等を表に記載できない場合は、想定地質断面図等に記載する。

8章 土質試験

(8. 1. 2)
土 質 試 験

土質試験の項目及び試験数量は、次による。

区分	試験項目	土質	試験方法	数量	備考
物理的 性質試験					
力学的 性質試験					

8章 土質試験

(8.1.2) 土質試験

・土質試験は、該当する試験項目及び数量について記載する。

[記載例]	土質試験の項目及び試験数量は、次による。					
	区分	試験項目	土質	試験方法	数量	備考
	物理的 性質試験	土粒子の密度試験	〇〇土	JIS A1202	〇〇試料	
		土の含水比試験	〇〇土	JIS A1203	〇〇試料	
		土の粒度試験	〇〇土	JIS A1204	〇〇試料	
		土の液性限界・塑性限界試験	〇〇土	JIS A1205	〇〇試料	
		〇〇〇〇試験	〇〇土	〇〇〇〇	〇〇試料	
	力学的 性質試験	土の一軸圧縮試験	〇〇土	JIS A1216	〇〇試料	
		土の三軸圧縮試験	〇〇土	JGS 0521	〇〇試料	
				JGS 0522	〇〇試料	
		〇〇〇〇試験	〇〇土	〇〇〇〇	〇〇試料	

[留意点]

- ・数量欄は、試料数を記載する。
- ・〇〇〇〇試験は、標準仕様書に記載されていない試験を行う場合に記載する。